

小学校第6学年【算 数】

全体的な傾向

- 主として「知識」に関する問題Aにおいて、学習指導要領の領域の「数と計算」「量と測定」「図形」においては達成状況が高い。
- 主として「活用」に関する問題Bにおいて、学習指導要領の領域の「図形」、「数量関係」などの問題に課題がみられる。

■ 問題A 主として「知識」に関する問題



- 「数と計算」
問題 1 「四則計算」や「同分母の分数の減法の計算」、問題 2 (4) 「偶数の意味」などの達成状況は高い。
- 「量と測定」
問題 3 「千円札を長方形とみると、長い方の辺はどれくらいの長さかを選ぶ」の達成状況は高い。一方、6 「方眼上の三角形の面積を求める」に課題が見られる。

☆ 公式を適応して図形の面積を求める際には、図形のどの部分の長さを測定すればよいかを判断することが必要です。

- 「図形」
問題 5 (3) 「平行四辺形の向かい合う辺の長さが等しいという性質を理解しているかどうかを見る」については達成状況が高い。
- 「数量関係」
問題 7 「百分率の意味の理解」については、課題がみられる。

☆ 百分率を計算によって求められるだけでなく、基準量を100として比較量はいくつになるかを考えて、割合をとらえられるようにすることが大切です。

■ 問題B 主として「活用」に関する問題

- 「数と計算」
問題 2 (1) 「上皿てんびんで消しゴムと分銅がつり合っていることを基に、消しゴムの重さを求める」については、達成状況が高い。
- 「図形」
問題 1 (3) 「長方形の紙に書かれた6つの円の半径の求め方について、長方形の縦の長さを使った求め方をもとに、長方形の横の長さを使った求め方を書く」に課題が見られる。

☆ 一つの問題に対して、いろいろな考え方や解決方法を発表し合うことを通して、他者の発言や記述の内容をもとに解決方法や考え方を理解したり、表現の仕方のよさに気付いたり見方を変えて新しい解決方法を考えたりすることが大切です。

- 「数量関係」
問題 5 (1) 「棒グラフから必要な数量を読み取る」は達成状況は高い。一方、問題 5 (3) の「基準量と比較量をもとに割合の大小を判断し、その理由を数学的に表現する」に課題がみられる。

☆ 資料について考察する場合に、全体と部分、部分と部分の関係を割合を用いて表す際に、基準量と比較量に当たる数量が何であるかをとらえられること、基準量と比較量をもとに割合の大小の判断ができることが大切です。